

〇〇小学校第1学年 道徳科学習指導の実際と考察

日時：令和2年12月2日（水）第5校時

授業者：〇〇〇〇小学校 教諭 〇〇〇〇

授業テーマ	保護者の授業参加により親の立場や願いに直接ふれることを通して、家族の一員としての自覚や家族の役に立ちたいという想いを高める授業
-------	---

1 主題名 かぞくのために C 家族愛、家庭生活の充実

2 教材名 サバンナの家族（出典：新・みんなのどうとく 学研）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本指導の内容は、父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知ることにある。低学年の子どもたちは、家族の一員であることに喜びを感じつつも、家族に守られ受け身の立場であることが多く、自分から家庭生活に関わろうとするところまでには至っていない。家族の愛情に気付いて、積極的に関わり、家族の一員として役に立つ喜びが実感できるようにしていくことが大切である。

(2) 児童の実態（子ども観）

本学級の児童は、学校生活では、係や当番の仕事、縦割り班での一斉清掃などに喜んで取り組んでおり、できることが少しずつ増えてきている。しかし、家庭生活においては、手伝いをしたことはあるものの、まだまだ家族に頼ったり甘えたりすることが多く、家族に守られていることを当たり前と思っている児童がほとんどである。

(3) 教材及び指導について（教材観及び指導観）

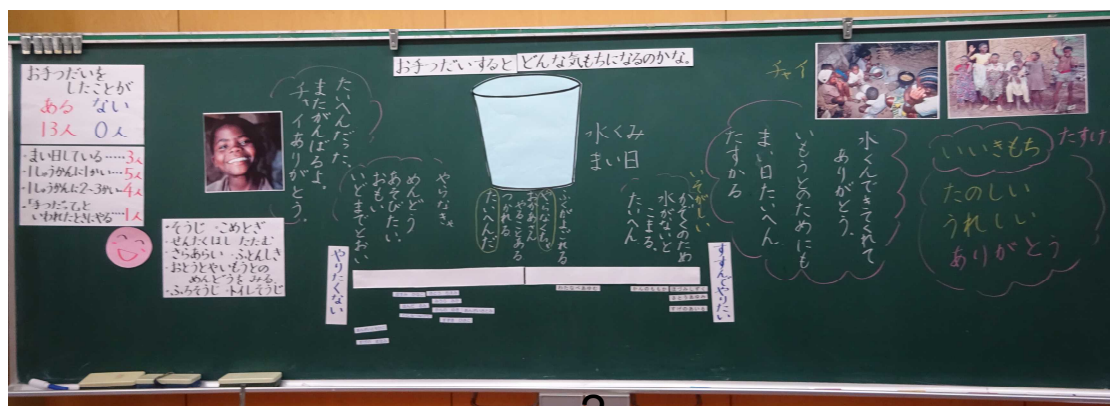
本教材は、サバンナで暮らす主人公の生活について考えることを通して、家族の中での自分の役割を見つめ直すものである。主人公は、学校から帰ると水くみに行く生活を続けているが、「いやだと言ったことはない」と話す。自分たちの生活と比べながら主人公の気持ちを考え、自分も家族の役に立っていることに気付かせたい。

本時では、自分たちの手伝いをアンケートで振り返り、主人公の手伝いについて考えさせる。保護者も交えた話合いや役割演技を通して、親の立場での思いに直接ふれるようにしたい。その中で、家族の役に立つ喜びや、家族の気持ちを実感をもって捉えさせたい。終末では、これまでの自分の生活を振り返るとともに、保護者から、子どもの手伝いがうれしかったこと、助かったことを話していただき、家族の思いにふれるようにする。自分の生活を見つめ直すことで、家族の一員としてできることを進んで実践しようとする意欲をもたせ、今後の家庭生活の充実へとつなげていきたい。

4 本時のねらい

保護者や友達と話し合ったり、役割演技をしたりすることを通して、進んで家の手伝いなどをして家族の役に立とうとする態度を育てる。

5 板書計画（実際の板書）



6 学習過程

	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問 ・予想される児童の反応)	時間	○指導上の留意点 ※評価
導 入	<p>1 自分がしているお手伝いについて思い出す。</p> <p>○ どんなお手伝いをしていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お皿拭き ・ 洗濯たたみ ・ 料理のお手伝い <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>お手つだいすると、どんなきもちになるのかな。</p> </div>	5	<p>○ お手伝いについてのアンケート結果を示しながら、これまでしたことがあるお手伝いやその時の家族の様子や気持ちを振り返り、本時のねらいとする価値に対する問題意識を高める。</p>
展 開	<p>2 教材を読んで考える。</p> <p>(1) ラジャブが、水くみをしている時の心の中について考える。</p> <p>○ ラジャブは、水くみをしながら、どんなことを考えていたのかな。</p> <p>[あまりやりたくないなあ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重くて、運ぶのが大変。 ・ 遊びたいな。 ・ 学校の宿題を早くやりたいよ。 <p>[進んでやりたい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水がないと困ってしまう。 ・ お父さんやお母さんは、他の仕事もあって忙しいから、手伝わなくちゃ。 ・ お母さんが喜んでくれる。 ・ 自分も役に立ちたい。 <p>(2) 晩ご飯の後、チャイを飲みながら、家族はどんなことを話しているか考える。</p> <p>◎ ラジャブのくんできた水でチャイを飲みながら、家族はどんなことを話しているかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ラジャブのおかげでおいしいチャイが飲めるよ。 ・ 水くみしてくれてありがとう。助かるよ。 ・ また明日もぼくが水をくんでくるよ。 ・ 学校で、友達と遊んで、楽しかったよ。 	<p>25 (15)</p> <p>(10)</p>	<p>○ 写真を提示し、児童にはなじみが少ないであろうアフリカ・サバンナの暮らしを簡単に紹介することで、話の内容を捉えやすくする。</p> <p>○ 掃除の時などのバケツの水を運んだ経験を想起させ、水の重さや運ぶ距離など、大変さを想像させる。</p> <p>○ 心のものさしで自分の考えを表すようにさせる。</p> <p>○ 進んでやりたいと考える子どもに対しては、「重いからやらなくてもいいんじゃない。」「お母さんにまかせたら。」など、ゆさぶりをかけることで、考えを深めることができるようにする。</p> <p>○ 友達や保護者のいろいろな考えを聴き合うことにより、多様な見方・考え方にふれさせる。</p> <p>○ 子どもがラジャブ役、保護者が家族役となり、役割演技をすることで、家族の一員として役に立つ喜びや、家族の温かい愛情を実感させる。</p> <p>※ ラジャブの手伝いを、本人の気持ちや家族の思いなど、多様な立場で考えている。(発言、役割演技)</p>
終 末	<p>3 自分を見つめて考える。</p> <p>(1) 自分の生活を振り返る。</p> <p>○ 今までの自分は、家族のために、進んでお手伝いしていたかな。</p> <p>(2) 保護者から、手伝ってもらってうれしかった話を聞く。</p> <p>○ おうちの人に、手伝ってもらってうれしかったことを聞いてみましょう。</p>	15	<p>○ お手伝いについて、これまでの自分を振り返り、ワークシートに記入させる。(4段階での自己評価・記述)</p> <p>【手立て2・イ】</p> <p>○ 何人かの保護者に、手伝ってもらってうれしかったこと、助かったことを話してもらい、自分が役に立つことを感じさせる。【手立て3・ア】</p> <p>※ 自分の生活を見つめ、家族の一員として、家族の役に立とうとしていたかを振り返りながら考えている。(ワークシート、発言)</p>

7 考察

【視点2】質の高い多様な指導方法への取組から

- 家庭での手伝いについて振り返らせ、アンケートの結果を導入と終末に取り入れた。児童に本時のねらいに関心をもたせることができ、終末では自分の手伝いについて見つめ直し、カードに具体的に記述して振り返ることができた。
- 「心のものさし」を活用したことで、児童は自分はどう思うか、どうするかと自分自身の問題として真剣に考えていた。また、家族の思いを想像しながら考える姿を見ることができた。
- 本時では保護者の授業参加により、「心のものさし」に保護者自身の考えを表したりその思いを発言したりするようにした。また、児童に多様な考えに触れさせたいという担任の思いを事前に保護者に伝え、意図的に揺さぶる発言を保護者から得ることができた。児童の思いがなかなか出にくかった「やりたくない」という考えを、保護者がネームプレートと発言で表したことにより、児童から「やりたい」「やりたくない」の両方の気持ちがあることが述べられ、考えが広がる姿を見ることができた。
- 保護者の協力により温かい雰囲気で行うことができた。児童は、自分の手伝いが家族の役に立ち、家族の喜びとなっていることを保護者の発言から実感することができた。
- 終末で、児童は自分がどのように手伝いに取り組んできたか、また、手伝いをしてどんな気持ちだったかを振り返ることができた。家族の役に立っていること、家族が喜んでいることを感じた発言や記述が見られた。
- 役割演技では、演技をした児童は演じてみてどう思ったか、見ている児童はどう感じたかを伝えることができると、さらに考えを深めることができたと思う。児童の考えを共有したり深めたりできるようにしたい。



【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について

- 道徳教育について、児童の発言や様子等の実際の姿を学級だよりに掲載して知らせた。保護者に、取組に対する理解をいただけるよう働きかけている。
- 本時のねらいの達成のためには、保護者にも教材の概要やねらいとする価値を理解していただくことが必要と考えた。前回の道徳科の授業に参加してくださった保護者には、次回の内容について説明したり、保護者全体には学年便りで協力していただきたいことを伝えたりした。そうした連携の手立てにより、参加した保護者からは、「子供の様子が分かりました。」「こういうふうに取り組んでいるんですね。」などの感想が聞かれた。保護者の適切な関わりにより、学びを深めることができた。
- 身近な人の実際の考えや切実な願いを聞くことは、児童にとって思いや考えを深めたり、実践意欲を高めたりするために有効だった。今後も家庭や地域と連携しながら、効果的な指導に努めたい。
- 保護者の参加人数によって、どのように関わってもらうか調整が必要になることがあった。

